

教育開花

実を結ぶ 幕末から醸成した学びの風土

再建を教育にかけた礎が 郷土の学校教育発祥につながる。

町内すべての小学校が 学制とともに開校

小笠原藩は、明治3年(1870)1月に藩庁を香春から豊津に移しますが、この時、藩校も豊津に移転し「育徳館」と改称、神崎村支館(福智町神崎)など4校を設置しました。藩の再建を教育に位置づけたこの取り組みは、およそ3年前の慶応3年(1867)にまでさかのぼります。

長州戦争に敗走し、同年3月に発足したばかりの香春藩は、その立て直しを「教育」にかけました。5月に藩校「思永館」を香春に移し、のちに藩主が住む屋形となる正福寺(赤村)を含む5か所で支館を開校



門弟が師の蹟を記し、建立した石置遺蹟の碑

その後、11か所で支館を開き、弁城村支館(福智町弁城)がこの時設置されました。神崎村支館では、九州屈指の私塾「水鏡園」で学んだ漢学者、佐藤猶龍が120人ほどの門弟を熱心に指導したと伝えられています。藩の教育振興で、私塾や寺子屋も盛んになり、なかでも善慶寺17代住職・黒田天麟は、本堂を「昭倫舎」という塾舎にして、下田川地域の教育につとめました。有名私塾の「咸宜園」や「恒遠塾」で学んだ黒田天麟は

昭倫舎で入門者に指導するかわら「水鏡園」にも遊学するなど、漢学に情熱を燃やしました。明治5年(1872)8月に「学制」が発布され、上野小学校、市津支校、弁城小学校、伊方小学校が開校します。昭倫舎はそのまま移行する形で明治6年(1873)3月に昭倫舎金田小学校を開校、黒田天麟が初代校長として自ら教壇に立ち、その翌年には昭倫舎系田小学校を創設しました。入学枠を広げるなど、幕末から郷土で行われた教育の風土はこうして実を結び、町内の学校教育発祥につながっています。「教育のまちづくり」の精神は、いま、子どもたちが通う学校に受け継がれ、息づいています。



9月18日、金田小学校の6年2組では「幕末の歴史」の授業が行われていた。町独自の教員採用で、きめ細かな授業や少人数学級などの教育振興に取り組み福智町。人づくりによる町づくりが、未来を担う人材を育てていく...

編集を終えて

かつて、金田の瀟石山にお殿様のお墓があった——そのことをたよりに取りかかった特集「幕末動乱」。調べを進めるうちに、次々と発見に出会い、当初予定のページ数も、その驚きとともに増えていきました。

藩主遺体が数奇な運命をたどり、この地にたどり着いたこと。奥方が六角家屋敷にとどまり供養したこと。それらの原因となる第二次長州戦争が大政奉還に直結していることなど、時代をひもとくにつれ、幕末維新の歴史的瞬間と郷土が無縁ではないことに気づかされました。

藩と幕府を揺るがした第二次長州戦争ですが、この時、長州軍を率いたのは若冠26歳の高杉晋作でした。松下村塾出身の彼に、藩は人づくりの大切さを痛感したのかもしれない。香春藩で取り組まれた教育による再建の趣旨は、町の「教育のまちづくり」に相通じています。

未来を築く子どもたちへの期待は今も昔も変わることなく、町の風土に刻まれています。ここで成長するその小さな胸に、郷土への誇りと志が宿ることを願っています。

かつて地元から「御廟」と呼ばれた一帯の竹林。小倉・小笠原藩9代藩主・忠幹の御廟跡はその面影もなくなりつつと茂る木々に囲まれている...

特集◆幕末動乱 完

【資料提供】小川忠文さん/香春町/北九州市立自然史・歴史博物館/広寿山福聚寺/高知県立坂本龍馬記念館/下野スギエさん/聖徳記念絵画館/長谷川深さん/福岡県立育徳館高等学校/錦陽同窓会/福田 昌さん/港区立郷土資料館
【参考文献】赤池町史/金田町史/金田町の伝承と言語/田川京築の歴史/方城町史(五吉庫) 特集の本文には子どもたちが読めるように、なるべく、ぶりがちな漢字を削っています。

幕末維新 福智ゆかりの人々

小倉から香春に藩庁が移った際、多くの藩士たちが郡内に移り住みました。福智町にもその足跡をみることが出来ます。金田人見の船庄屋・島津屋敷にいた新代・牧野弥次右衛門(建野郷三)は



建野が滞留した旧船庄屋・島津屋敷

明治政府で頭角を現し、大阪府知事や元老院議員、米米国行使などを歴任しました。母が金田の地で亡くなり、再三墓参りに訪れたという興七郎左衛門(興保堂)は、陸軍大將を経て元帥となります。その縁で、福智神社境内にある忠魂碑の碑銘を揮っています。



興元帥塚ごうの碑

また、赤池町史には「上野に屋敷を構えた右地安楽堂三」が、若手県知事になったと語られているが、確証がなかった」と記されている。若手県令や茨城県知事、貴族院議員を務めた小倉藩出身の石井省一郎と、町史にある生年月日が同じであることから、その可能性を認めません。「このように藩の人づくりは、明治新政府にも反映されています。